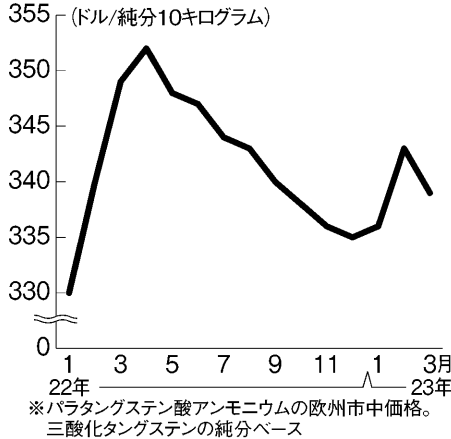


タングステン、上値重く

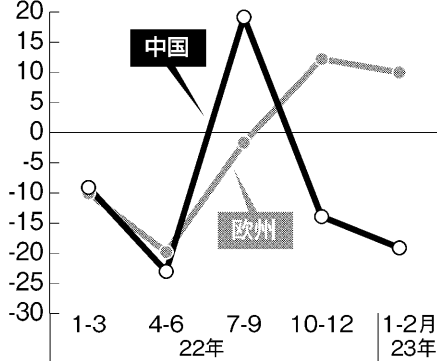
中・欧の新車販売振るわず

車載部品の切削工具などの原料となるタングステンの国際相場の上値が重い。最大の生産・消費国である中国に加え欧州でも2022年に新車販売が振るわず、供給網での原材料需要が抑えられた。同年末には中国の自動車購入税の減免措置が終了したことも影を落とす。ただ、欧州では新車販売が持ち直しているほか、中国では23年後半にかけて緩やかな景気回復が見込まれることは相場の下支え材料となりうる。

タングステンの国際相場(月平均)



中国と欧州の新車販売台数 (EV除く前年同期比)



摩擦による高温環境で、主にエンジンなど車載部品の切削に最終利用されるため、相場の超硬工具に使われる。主にエンジンなど車載部品の切削に最終利用されるため、相場の超硬工具に使われる。主にエンジンなど車載部品の切削に最終利用されるため、相場の超硬工具に使われる。主にエンジンなど車載部品の切削に最終利用されるため、相場の超硬工具に使われる。

中国で22年後半まで続いた新型コロナウイルス感染症対策の行動制限の影響で上値が抑えられた。中国では電気自動車(EV)販売が好調だが、超硬工具の切削で主力用途のエンジンを搭載する内燃機関車の販売は停滞し、EVを除く22年の新車販売台数は前年比約8%減となった。同年末には自動車購入税の減免措置が終了し、23年1-2月も前年同期比19%減と不調だ。

また欧州では、エネルギー高を背景に22年に景気が冷え込み、欧州主要18カ国のEVを除く乗用車の販売台数は前年比約6%減となった。「西側諸国はタングステンを鉱石やリサイクルからの調達で賄っており、これら地

域の中国からの輸入が増えないと国際相場は上がってこない」(レアメタル専門商社アドバンストマテリアルジャパンの西野元樹第一営業本部長)との声がある。

ただ欧州では22年後半以降、新車販売に底入れの動きがあるほか、冬の気温上昇でエネルギー高が和らいで深刻な景気悪化懸念は後退。1-2月のEVを除く乗用車販売台数は前年同期比約10%増と持ち直している。

また中国景気は、不

動産投資の過熱抑制策が重荷となるが、年初の新型コロナウイルス感染症対策の緩和で復調が見込まれる。「政府は過度な景気刺激策はとらないが、抑えられていた消費が出てきて緩やかな成長軌道に戻っていく」(クレディ・スイス証券の松本聡一 本最高投資責任者)との見方がある。

工具など関連企業では「23年後半の需要回復見通しが出ている」(西野氏)こともあり、相場も底値を探る展開となりうる。

また中国景気は、不